

カンタス再び！

オーストラリアの航空大手カンタス航空が初めて新千歳空港に定期便を就航させたのは、1992年10月だった。同国北部のケアンズとの間に週2便。89年から夏と冬に飛ばしたオーストラリア | 新千歳間のチャーター便が好調で、定期便化に踏み切った。

翌年2月、ケアンズ線開設のお礼のためシドニーのカンタス航空を訪れた横路孝弘道知事(当時)に対し、同社社長は「観光はオーストラリアの第一の収入源。その最大のお得意先は日本」との認識を示した。

就航には北半球と南半球の違いを生かし、北海道から多くの観光客をオーストラリアに呼び寄せる狙いがあったのだろう。だが2007年には撤退。「より収益性の高い路線に機材を投入する」との理由だった。

そのカンタスが今年12月から来年3月まで、新千歳 | シドニー線の季節運航を決めた。前回の主な対象がオーストラリアを訪れる日本人観光客だったのに対し、今度はオーストラリアの旅行客がターゲットだ。

オーストラリアでは道内スキーリゾートの人気の高い。とりわけ新千歳空港に近いニセコ地区は、01年の米中枢同時テロで北米が敬遠され始めたのをきっかけに、上質なパウダースノーが注目されるようになった。

シドニー線の就航でニセコ人気にはますます拍車がかかりそう。すでに外国人が増えている地元の倶知安町は、地域のゴミステーションや街路灯の管理を行う町内会に、外国人居住者加入を促す条例まで制定している。

ただ、乗客が日本人、オーストラリア人のどちらかに偏るようでは、かつてのケアンズ線の二の舞いになりかねない。

せっかくの直行便である。季節の違いをうまく活用してお互いの需要拡大に努めれば、通年運航も不可能ではなからう。人の行き来が増えれば、両国の観光だけではなく北海道経済の底上げにもつながるのではないか。

北海道新聞社 論説委員室主幹 川嶋 信義